

令和2年度の取組み

北九州市立美術館

令和2年度の事業展開

令和2年度は、美術館本館のリニューアル・オープンを契機に定めた『北九州市立美術館運営5カ年計画』に沿って、以下の事業を展開する。

特に、自主企画展の実施及びそれに関連する資料収集・調査研究、「東アジア文化都市2020北九州」にかかる事業に重点的に取り組む。

1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～

(1) 収集活動の継続

開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。

- 現代の多様性を示す優れた作品
- 地域の美術史を構築する上で欠かせない作品
- 近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完

<令和2年度の取組み>

- ① 既存コレクションを充実・補完するため、所蔵作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。
- ② 各企画展や「guest room」など、当館事業に関わる作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。

【評価指標】

- 美術作品の収集内容

(2) 作品修復、作品保管環境の整備

所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。

<令和2年度の取組み>

- ① 緊急性の高い作品から順次修復を行う。
- ② 日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。

【評価指標】

- 修復作品の内容・選定理由
- 収蔵庫の環境整備状況

(3) 美術資料・図書の一括管理

当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館 50 周年となる 2024 年の一般公開を目指す。

<令和 2 年度の取組み>

- ① 作品データベースの資料作成、精査を行う。
- ② 図書データベースの資料作成、精査を行う。
- ③ 作品・図書をよりよく運用するための整理を行う。

【評価指標】

- データベースの整備と公開に向けた取組みの状況

2 公開 ～調査研究・展覧会～

(1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価

企画展や guest room を通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。

<令和 2 年度の取組み>

- ① コレクション展における特集展示「guest room」第 5 回展、自主企画展「アートのなかの SF 展」(東アジア文化都市 2020 北九州関連事業)を開催する。

【評価指標】

- 作家についての調査内容

(2) 所蔵作家のアーカイブ整備、研究論文・口頭発表

所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。

<令和 2 年度の取組み>

- ① 自主企画展「アートのなかの SF 展」(東アジア文化都市 2020 北九州関連事業)「guest room」第 5 回展の開催にあたり、論文公開や口頭発表を行う。

【評価指標】

- 研究成果の件数・内容

(3) 特色ある展覧会（コレクション展・自主企画展）の実現

調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。

<令和2年度の取組み>

- ① テーマの異なる3つのコレクション展（シュルレアリスム、現代アート・コレクション、野見山暁治）を開催する。
- ② 「アートのなかのSF展」（東アジア文化都市2020北九州関連事業）で現代作家を紹介する自主企画展を開催する。

【評価指標】

- 企画の内容

(4) 他館や他機関と共同企画の実施

他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。

<令和2年度の取組み>

- ① 「GIGA・MANGA」展（東アジア文化都市2020北九州関連事業）において、京都国際漫画ミュージアム、すみだ北斎美術館、東北歴史博物館と共同で展覧会を企画する。
- ② 「アートのなかのSF展」（東アジア文化都市2020北九州関連事業）において、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館とテーマを協同し同時開催する。

【評価指標】

- 連携の件数・内容

3 交流 ～教育普及・地域交流～

(1) 学校と連携した学習プログラムの実施

教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。

<令和2年度の取組み>

- ① 引き続き全市立小学校3年生を対象に「ミュージアムツアー」を実施し、対話型鑑賞を実践する。また、昨年同様のいのちのたび博物館と連携したツアーも実施する。
- ② **（新規）** ツアーに参加する教員に対する美術館マナー、対話型鑑賞についての研修を実施する。
- ③ **（新規）** 特別支援学校児童の受け入れ方法について検討を行う。

【評価指標】

- 参加校の満足度
- 実施状況

(2) 特色あるワークショップ・講演会の実現

子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。

また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。

<令和2年度の取組み>

- ① 各展覧会と連動したワークショップを行う。
- ② 各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。
- ③ 長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を実施する。

【評価指標】

- 参加者の満足度

(3) ボランティア組織の運営

現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。

<令和2年度の取組み>

- ① プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班に分かれたボランティア活動を支援する。
- ② (新規) ボランティアによる一般来館者向け鑑賞プログラムを実施する。
- ③ ボランティア活動を充実させるための研修・講義を行う。

【評価指標】

- ボランティア制度の運営状況

(4) 他館や他機関との連携

他館や他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。

<令和2年度の取組み>

- ① 北九州芸術劇場と連携し、コレクション展をテーマとした公演「モネ、逆さまの睡蓮」を行う。

【評価指標】

- 参加者の満足度
- 実施状況

4 広報 ～利用促進のための情報発信～

(1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略

展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。

また、外国人向けの広報も充実させる。

<令和2年度の取組み>

- ① 美術館に対する市民のニーズを把握するため、引き続きアンケート方法を検討する。
- ② (新規) 美術館公式SNSの開設、SEO対策(検索エンジン対策)について検討する。
- ③ (新規) 市民センターの生涯学習事業活用へのPRを行う。

【評価指標】

- アンケートの実施方法
- 公式SNSの検討状況
- 市民センターの活用状況

(2) 他館や他機関との連携

来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。
また、美術館友の会の活用を図る。

<令和2年度の取組み>

- ① 他館と連携した割引特典等の企画を実施する。
- ② 美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。
- ③ (新規) 東アジア文化都市2020北九州と連携した広報を行い、来館促進を図る。

【評価指標】

- 連携の件数・内容

5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～

(1) ミュージアム機能・設備の強化

美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。
また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。

加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。

<令和2年度の取組み>

- ① (新規) 本館搬入エレベータ更新のための実施設計に着手する。
- ② アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。
- ③ 警備、清掃、受付・監視等の現場会議を行う。
- ④ 老朽化に伴う事故を防止するため、建物(建築・設備・消防等)点検を徹底する。
- ⑤ 来館者サービス向上のためカード決済の導入について検討する。

【評価指標】

- 実施状況